

～～ あなたは「何の花」ですか？ ～～

先月、下の子どもが20歳の誕生日を迎えました。

経済的に自立しているわけではないので子育てが終わった！という感じはないけれど、「成人した＝大人として扱われる」という意味では、ひとつの区切りがついた感じです。

今あらためて成人した子どもたちを見てみると、自分が思い描いたものとは多少違うとはいえ、本人たちはそれぞれの場所で一生懸命がんばっているし、振り返れば反省することがたくさんあるけれど、自分自身も「やることはやってきた」と思っています。(子どもたちは不満かもしれませんが…)

そんなときにふと頭に浮かんだのが、「世界に一つだけの花」という歌の歌詞でした。

ほくらは世界に一つだけの花。一人一人違う種を持つ その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい

正直言って、子育ては悩んだり落ち込んだりする連続でした。

なんでだめなの？なんでうまくいかないの？なんでこうなるの？

自分の思いどおりにならないと、子どもたちを責めたり自分を責めたり…

自分の思いが伝わらないもどかしさから、ときには子どもに、怒りを激しく

ぶつけたこともありました。(アンガーマネジメントができていなくて…)

もう少し自分は理性的で、「良い母親」になれると思っていたのですが、そんな自信は何度も打ち砕かれてきました。そんな自分を今振り返ってみると…

わたしがしていたことは、子どもが「何の花」であるかを考えることよりも、そしてその花にふさわしい育て方をすることよりも、自分が「咲かせたい花」に変えようとしていたのではないかな…

そのために、肥料や水(親の励まし・勉強・言葉)をたくさんあげてみたり、植える場所(進学先や就職)を一生懸命考えてみたり、自分が気になる枝や葉っぱを切ろうとしてみたり(怒ったり厳しくルールを作ったり)、逆になにもしないでほったらかしにしてみたり(本人の好きなようにさせてみたり)…

でも結局親がやるべき仕事は、子どもが咲かせるはずの花(可能性や個性)を咲かせることだけに、一生懸命になることなんですよ。

でも生まれた時は「種」の状態、何の花が咲くのか全然わかりません。せめて「この子はこういう花です」とわかっていれば、その花に適した場所、適した肥料、適した育て方ができるけれど、日かげ(静かなところ)が好きなのか日なた(にぎやかなところ)が好きなのか、外で育てた(のびのびさせたほうがいい)ほうがいいのか、温室に入れて(細かく目を配って)おかないと弱ってしまうのか、肥料やお水(親の励まし・勉強・言葉)はあまりあげないほうがいいのか、たくさんあげたほうがいいのか…朝顔のような支柱(周りからの手助けや配慮)は必要か必要ではないか。



その答えは、目の前の子どもを見て考えるしかないし、良かれと思ってたくさん水や肥料(親の期待・勉強・ならいごと・言葉かけ)をあげたら根が腐って弱ってきたり、タイミングを間違えて、花の咲く(本人の望む)時期とずれてしまって役に立たなかったり…

逆に人一倍肥料(愛情や周りからの支援)がたくさん必要だったり、本当は温室に入れる必要があるのに、ほったらかしにされて枯れかかったり…もともと弱くて病気になりやすいのに、なんの手当てや配慮もしてもらえなかったり…

ひまわりを日陰に植える人はいない、胡蝶蘭を花壇に植える人はいない、でも種だけ見てもどこに植えればいいのかはわからない。

子育ては難しく、また悩むことが多いのは、わからないことばかりだからだな…と今、思っています。

一方、今みんな自身も、自分が「何の花」なのか…と考える時期に来ています。

「自意識(自分が思っていたもの)と客観的事実(ほんとうの自分)との違いに悩み、様々な葛藤の中、自らの生き方を模索しはじめる時期(文部科学省HPより)」なのです。

しかし自分自身も自分が「何の花」かわからないから、本当はたんぼぼなのに、ひまわりになりたくて自分を大きく見せようとして疲れてしまったり、逆にひまわりになれない自分はダメだと落ち込んでしまったり…桜のように種からすぐに花は咲かないけれど、そのときが来たらみんながうっとりする花を咲かせられるのに、みんなと同じ時期に花が咲かない自分はダメだとあきらめてしまったりすることもあるかもしれません。

自分は「何の花」なのかと、自分に向き合うのは苦しいことだと思います。自分が思っているもの、自分の願うものと違った場合、ありのままの自分を受け入れることは辛いことだと思います。

だから思春期は、わけもなくイライラしたり、落ち込んだりするわけです。

でも大切なことは、「自分の花」を、ちゃんと咲かせられるか…ということです。

「その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい」のです。

まして「一人一人違うのに、その中で一番になりたいがる」必要はありません。

なぜなら

「一つとして同じものはないから、NO1にならなくていい もともと特別なonly one」からです



自分が「何の花」なのかわからず悩んでいる人

自分が「なりたかった花」になれないと悩んでいる人

そして自分の子どもが「何の花」なのかわからず悩んでいる保護者の方

自分の子どもが「自分が望む花」になってくれないと悩んでいる保護者の方

保健室に来てみませんか？

世界に一つだけの花を咲かせるために、一緒にいろいろ考えてみましょう。

